

# 子どもたちを真ん中に 笑顔あふれるまちづくり



埼玉県三郷市 特定非営利活動法人MIKOネット





埼玉県三郷市の「みさと団地」は日本で2番目に大きいURの団地。JR武蔵野線の新三郷駅から徒歩5分と利便性が高く、近隣には大型のショッピングモールが立ち並び開発が進むが、団地では少子高齢化が進み一人暮らしの高齢者も多い。特定非営利活動法人Mikoねっと(代表理事・工藤トモさん)は、みさと団地を拠点に様々な年齢の方々が地域の中でふれあいながら、心豊かに過ごせる地域・まちをつくることを目指して「地域の子育て力アップ・三世代交流の場づくり」に取り組んでいる。

8月27日(土)、みさと団地南地区の集会所とコミュニティ広場で、同会が主催する「夏まつり2022」が開催された。この夏まつりは、8年前にMikoねっとの事務所がこの場所に移動してきたことをきっかけに開催し、神輿担ぎや盆踊りなど地域の様々な世代が参加する大きなイベントだったが、コロナ禍により中止に。工藤さんは「夏まつりはもうやらないの?」と子どもたちから尋ねられ、地域のつながりとして大きな存在になっていたことを実感したという。そこで今回は子どもたちを対象を絞り小規模ながら復活することになった。

夏まつりの運営は子どもスタッフが大きな力となる。ヨーヨー釣りの準備では、子どもたちがバケツリレーでプールに手際よく水を入れていく。釣りに使うコヨリの使用感をチェックすると、切れやすい紙で作ったはずが「めっちゃとれるよ」「めっちゃとれちゃダメなんだけど」試行錯誤しながら子どもたちが自分たちで考えて準備を進めていく。

本番は13時から。「スパーボールすくい」「ヨーヨー釣り」「くじびき」「おたから釣り」など、店番に立つ小学校低学年の子が、ゲームのやり方を説明し対応する。年長の子もたちが店番をやる様子に憧れて低学年の子はひときわ頑張る様子。「輪投

げ」のブースを担当する高校生スタッフの加藤さんは「小学生の頃ここに遊びに来てお世話になったので恩返しをしたい」と、地域のイベントがあるときにはお手伝いに来ている。

行列が絶えないのが「お願い神社」。段ボールを使った手作りの神社で紙粘土で作ったご神体もあるなど手作りの大作だ。願い事を書いた短冊を飾り参拝の手順が書かれた通りにみな真剣にお祈りする。この神社を制作した高校生スタッフの太田さんは、「小学生のときに友だち3人で作りました。3年ぶりに出しましたがこの神社が残っていて良かったです」と話す。

また、この日は12時から子ども食堂も行われた。同会では、食を通じた子どもの居場所づくり「みんなで作って、食べよう!」として月1回、小中学生と家族を対象に一緒にお昼ご飯を作り食べていたがコロナ禍の現在は配食活動を行っている。

対象は、同会が行う放課後子ども広場の参加者や子ども食堂に登録している子ども。事前に申し込んだ約80人に配布する。近隣の食堂に注文し「野菜が多いメニューをお願いしています」と工藤さん。また埼玉県による「夏休み子ども応援カレー大作戦」事業に参加し、県から受け取ったレトルトのカレーやパックごはんも合わせて配布する。受け取りにきたある人は、「子どもが3人いて、自分では全部できないこともあるので、こうしてサポートしてくれる人の存在があると安心できる」と話す。

また、子ども食堂に来た人全員に、来年1月に開催するコンサートへの参加を呼び掛ける。日常生活の中にこうした時間を親子で一緒に持つてもらい、共感する体験をしてほしいと同会は願う。

特定非営利活動法人Mikoねっとは平成21年に発足。前



身の三郷吉川おやこ劇場の活動を含めると約30年の活動歴になる。名称は「みやこ misato」「じゅも kodomo」「おとな Onana」「ネットワーク」を組み合わせたもの。みんなでつながり、広げるネットワークを意味したものだ。

活動は多岐に渡り、中でも、子どもが子ども会議で自分たちのやりたい遊びのブースなどを、自らが主体的に企画準備し当日運営する「こどもライブフェスタ」や「こどもがつくるまち『こどものまち』」など、子ども自身の発想を大切にしている。

また「大人の広場MiKOマルシェ」では地域の子どものとつながら「おじいちゃんおばあちゃんの生きがい講座」を開いている。高齢者が年間を通じて布芝居づくりに取り組み、完成したら保育園等を訪問し布芝居の読み聞かせを行うなど、地域の交流の機会を作っていたが、ここ2年は、コロナ禍で訪問ができないため、製作した布芝居は、あそび広場や子育てフェスタで展示披露している。新しい子どもと高齢者の共同体験・交流として「ガーデンレタスマックス」の栽培も加えて取り組んでいる。

こうした事業の核になるのは「子どもの目線で考えてみよう」という考え方だと工藤さんは話す。子育ては一人でするのではなく、地域のたくさんの方の目と手の中で行い、様々な価値観の大人の中で育ちあうことが大切だと考えている。コロナ禍で活動を取り巻く環境が変わったが、人と人がふれあい交流する場をどのように作っていくか、模索しながら活動を少しずつ積み上げていく。

**【問い合わせ先】**  
 特定非営利活動法人MiKOねっと  
 TEL 048-959-5003(事務所)  
 メール:miko\_net0907@yahoo.co.jp